

月形の農業を支える

青果物集出荷貯蔵施設が完成



令和3年3月、月形町青果物集出荷貯蔵施設が完成しました。また、月形町穀類乾燥調製貯蔵施設（こめ工房）では、より高い精度でお米を選別するため、^{もみす}籾摺り機や色彩選別機などが最新式の機械に更新されました。これからの月形の農業を支える施設として期待されます。

月形町青果物集出荷貯蔵施設が建設された背景や役割、そしてこれからの農業の姿などを紹介します。

どんな施設？

▼施設の概要

この月形町青果物集出荷貯蔵施設は、カボチャとミニトマトを一堂に集め、これまで生産者が個別に行っていた選別や箱詰め作業を一手に引き受け、貯蔵、出荷までを担う施設です。

面積 2338・40㎡
高さ 8・9m

▼建設された背景

●園芸作物の生産

農地の多くは水田となっており、食の多様化から米の需要減少などにより、転作（米を生産していた農地で違う作物を生産すること）が進み、カボチャやミニトマトといった園芸作物の作付も増えました。

●担い手の減少

しかし、月形町では若者の都会流出や生産者の高齢化などにより、労働力が不足しています。

●本州からの需要

月形で生産されたカボチャとミニトマトは本州に出荷されますが、特に、中京圏が多く、ミニトマトは7割が中京圏、3割は関東圏に出荷され

ます。

大手スーパーの販路も決まっており、「もつと出荷してほしい」と引き合いがある状況です。安定して作物を出荷していきたいところですが、前述のように生産者の減少により、安定供給が危ぶまれています。

●生産者の作業負担

生産者が栽培したトマトやカボチャは、収穫後、規格・等級別に選別し、箱詰めまで行われます。選別・箱詰め作業には、多大な労働力と時間がかけておられ、育苗からハウスの準備、除草、防除、収穫、選別・箱詰め、出荷などの一連の流れのうち約3割の時間を占めていると言われています。



▲内観のようす

良くなること

▼作物の品質が均一化

従来、それぞれの農家の目で選別されていたものが、本施設の選別機能でその手間が省かれるばかりか、一定の基準で選別され、より品質の均一化が可能となります。

▼作業の省力化

生産者にとっては、これまで個別に行っていた選別・箱詰め作業がなくなり、代わりに本施設が一括で行うことにより、省力化が図られ、作物の管理に集中できることとなるのです。

そして、さらなる品質の向上や作付面積の拡大が可能となり、所得向上を期待することができるようになります。

また、施設内においても、新しい選別機を導入したことにより、ミニトマトの処理が午前中に完了。午後からはカボチャの処理に充てることが可能となることに加え、ミニトマト、カボチャ両作物に係る選別機の担当者を固定でき、施設内でも効率化が進みます。

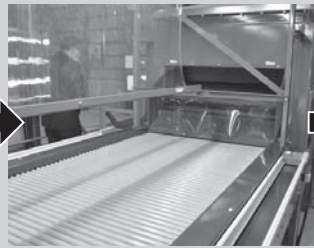
このように本施設は、産地を守っていく体制を確保していく重要な施設となります。



ミニトマト 選別から箱詰めまでの流れ



ミニトマトを手作業で荷受けします。



人の手によってキズや汚れを選別します。



小さい物から大きい物へ順番に選別されます。ローラーの隙間がそれぞれ異なることで、サイズ別（8規格）に選別されます。

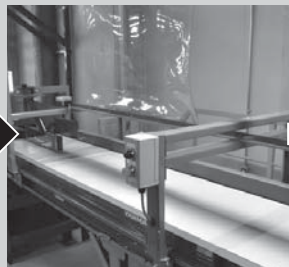


自動で3kgごとにカゴへ落ちていきます。上のレーンには空の箱が流れてきます。

カボチャ 選別から箱詰めまでの流れ



コンテナに積まれたカボチャを荷受けします。キズが付かないよう少しずつカボチャが落ちていきます。



人の手で選別されたあと、ブラシで磨かれます。



計量器の中を通過して、重量別に7規格に選別されます。



手前から奥に向かって、自動的に軽い順に運ばれ、設置してあるカゴの中にカボチャが落ちていきます。

乾燥調製貯蔵施設
(こめ工房)

機械の更新

紹介してきた月形町青果物集出荷貯蔵施設のほかに、既存の「こめ工房」内では、最新の色彩選別機2基と^{もみす}初摺り機4基が更新されました。

施設の整備当初の計画では、米の荷受処理量は5000トンとしていました。しかし、流通構造などの変化により、紙袋からフレコン出荷へ変わったことや、高い水準で安定した品質が求められるようになったことから、「こめ工房」の需要が高まり近年の荷受処理量は6000トンと設立当初の計画を大きく上回っています。

今回の整備によって、初摺り・色選能力が向上し、効率化が図れるとともに、製品化率の向上も期待されます。また、各昇降機にエアブローを設置したことで他品種混入のリスクも軽減されます。

また、安定的に高品質な米を供給できることで、市場価値が高まり、生産者の契約数量、栽培数量の増大が期待されます。

安全と発展を祈念

4月14日に安全祈願祭が行われ、農業協同組合、各生産組合、施工や機械の導入などに携わった企業などが参列し、無事故と月形町の農業の発展を祈念しました。



生産者の声

月形^{そさい}野菜生産組合長

小林 衡さん

今まで箱詰めで使用していたダンボールの管理が楽になり、在庫を抱えることがなくなりやすくなりました。また、倉庫のスペースも確保できやすくなりました。収穫してから、コンテナに積み、この施設に持つていくだけなので、従業員の手間も省けます。

長い目で見れば、機械の投資、初期費用を抑えるリースなども活用して、生産量を増やしていければと思います。